

■コメント

1. マイコプラズマ肺炎

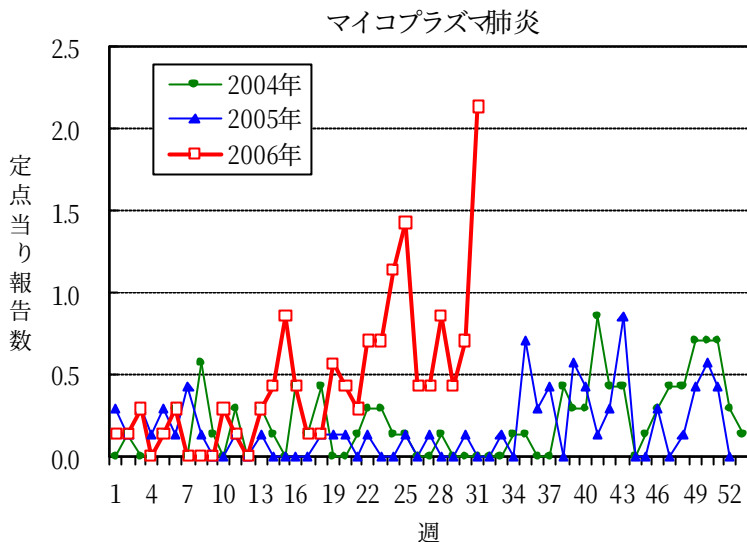
15人 (定点当り2.14人)と、今年最も多い報告数となっています。6月ごろから多い状態が続いています。

2. 無菌性髄膜炎

6人 (定点当り0.86人)となっており 6月下旬から多い状態が続いています。今年は患者からエコーウイルス18型が多く検出されています。

3. 手足口病

定点当り0.50人となっています。今年は大流行した昨年と異なり、例年同時期と比べて少ない状態が続いています。



■5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号
インフルエンザ(注2)	-	-	-		麻疹(注3)	1	0.04	0.02	
咽頭結膜熱	9	0.38	0.53		流行性耳下腺炎	11	0.46	1.35	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25	1.04	0.63	⇒	RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	85	3.54	2.77	⇒	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	19	0.79	0.99	⇐	流行性角結膜炎	10	1.25	1.85	
手足口病	12	0.50	2.64		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	14	0.58	0.42	⇐	無菌性髄膜炎	6	0.86	0.86	
突発性発疹	14	0.58	0.89		マイコプラズマ肺炎	15	2.14	0.11	
百日咳	-	-	0.02		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風疹	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	27	1.13	2.58	⇐					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1) 過去5年間の同時期平均 (定点当り)

(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く

(注3) 成人麻疹を除く

(注4) オウム病を除く

■1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

報告はありません。

■ 5類感染症報告状況の推移 定点把握対象分)

			インフルエンザ (注1)	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん	
報告数	広島市	第27週	3	16	25	128	27	10	29	17	-	-	102	-	21	-	-	6	-	4	3	-	-
		第28週	2	16	32	124	19	9	32	20	-	-	106	-	17	-	-	11	-	10	6	-	-
		第29週	-	12	19	87	27	7	11	15	-	1	57	-	10	-	1	10	-	4	3	-	-
		第30週	1	5	26	78	24	9	19	16	1	-	46	-	14	-	2	15	-	8	5	-	-
		第31週	-	9	25	85	19	12	14	14	-	-	27	1	11	-	-	10	-	6	15	-	-
定点当り	広島市	第27週	0.08	0.67	1.04	5.33	1.13	0.42	1.21	0.71	-	-	4.25	-	0.88	-	-	0.75	-	0.57	0.43	-	-
		第28週	0.05	0.67	1.33	5.17	0.79	0.38	1.33	0.83	-	-	4.42	-	0.71	-	-	1.38	-	1.43	0.86	-	-
		第29週	-	0.50	0.79	3.63	1.13	0.29	0.46	0.63	-	0.04	2.38	-	0.42	-	0.13	1.25	-	0.57	0.43	-	-
		第30週	0.03	0.21	1.08	3.25	1.00	0.38	0.79	0.67	0.04	-	1.92	-	0.58	-	0.25	1.88	-	1.14	0.71	-	-
		第31週	-	0.38	1.04	3.54	0.79	0.50	0.58	0.58	-	-	1.13	0.04	0.46	-	-	1.25	-	0.86	2.14	-	-
全国	第29週	0.16	1.32	1.06	2.82	1.24	1.80	0.39	0.73	0.01	-	2.98	0.01	1.61	-	0.02	1.35	0.02	0.10	0.32	0.01	-	
	第30週	0.11	1.34	0.97	2.92	1.00	1.90	0.56	0.82	0.01	-	2.71	-	1.62	-	0.03	1.37	0.02	0.16	0.46	-	-	

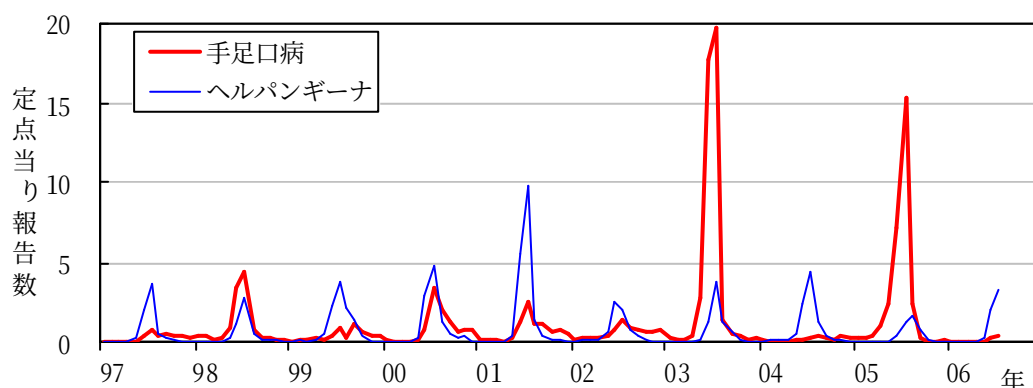
注1)高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

■ 新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	13	女	2006/06/17	髄液	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	9	女	2006/06/19	糞便	エコーウイルス18型
ミトコンドリア脳筋症	8	女	2006/06/25	咽頭拭い液	エコーウイルス18型
咽頭結膜熱(疑)	1	男	2006/06/20	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス
細気管支炎	0	男	不明	咽頭拭い液	エコーウイルス18型
上気道炎	0	不明	2006/06/21	髄液 糞便	エコーウイルス18型
不詳	0	男	2006/06/22	髄液 糞便 鼻汁(拭い液)	パレコウイルス
不詳	0	男	2006/06/22	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス18型
不詳	0	女	2006/06/23	髄液 糞便	エコーウイルス18型
不詳	0	男	2006/06/24	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス18型
不詳	0	女	2006/06/26	髄液 糞便	エコーウイルス18型

【参考】広島市における手足口病とヘルパンギーナの流行パターン

(1997年～2006年7月)



注) このグラフの縦軸は、月別定点当たり報告数の1週当たり平均値を示しています。

手足口病とヘルパンギーナは、毎年6月から8月の夏季を中心に流行するウイルス性の感染症です。

毎年の流行パターンをみると、手足口病はヘルパンギーナと比較して、流行時期、流行の大きさ、流行パターンに、年による変動が大きい傾向にあります。

最近の広島市の手足口病は、2003年、2005年に大流行となりましたが、翌年の2004年、2006年は、ほとんど流行がみられない状況となっています。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2006年第31週 7月31日～8月6日)